

掲示用

No.246

令和6年2月発行

せつぶん ぎょうじ  
節分はどんな行事

2月 日( )

節分というのは「季節を分ける」という意味です。ですから、もともと節分は、春、夏、秋、冬の4回ありました。今では立春の前日をさすことがほとんどです。昔は立春で冬が終わり、新年が始まると考えられていました。そのため節分は、「おおみそか」のように大切にされ、行事として伝えられてきました。

節分には、豆まきをする習慣がありますが、これは中国から伝わったと言われています。新しい年を迎える前に、悪いものを払うために行われました。大切な作物である豆には穀物の霊が宿っていて、その力が悪霊をしりぞけると考えられていました。また、ヒイラギの枝に焼いたイワシの頭を刺したものを玄関に飾る習慣もあります。これは、ヒイラギのとがった葉やイワシの臭いを、鬼が嫌がって厄よけになるとされているためです。

また、豆まきの後は、年の数だけ豆を食べて、1年の無病息災を祈るという習慣もあります。みなさんも福豆を食べて元気に過ごしましょう。

参考文献：高野紀子・作「和の行事えほん」

